

## ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 伊藤 萌子

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

薬学部薬学科に所属し、生物学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、生理学や病態生化学関連科目の講義・実習の担当、分子生物学・生化学分野の実験研究を中心とする卒業研究支援である。

### 【理念】

薬学における生物系科目は、生命現象の理解と正しい知識の習得により、人体の仕組みの全体像を把握し、疾患や薬物治療とのつながりを捉えることを目的としている。私の担当科目では、生物学関連の知識・技能の修得支援を通じて、個々の学生が自らの興味や目標に向かって主体的に学び、思考し、言語化する体験を促したい。近年、新入生の学力や学習経験が年々多様化しているが、全ての学生が講義、実習を理解し習得できるよう、特に知識の伝達方法には工夫を凝らしたい。また、日々複雑化し進歩する医療において、薬学生が生涯に渡って学習を続けるための基礎を築くことを念頭に置いた教育を実践する。卒業研究では、実験研究を通じた問題解決能力の向上を支援する。大学の教育課程で努力したことについて自信を持って自分のエピソードとともに語れる学生を育てる。

### 【方針・方法】

薬学部で採用されている教科書は、薬学に必要な内容を厳選したものが用いられている。したがって、教科書の理解は薬学生の知識の基盤であると考え。そのため、講義では教科書の精読と、得られた文字情報のイメージ化および再言語化を重視する。また、卒業研究では、専門知識・専門技術を身につけた上で、自ら問題を発見し、解決できる人材育成を行う。

#### 「自ら学び、表現する力をつける」

- 教科書の情報の中から自力で答えを探し出し、課題を設定することで、文章読解力と理解力の向上を促す。また、授業期間において、短い記述式の演習問題やレポートの執筆を継続して課すことで、問いに対する解法や自らの思考を文章化する練習を行う。

#### 「知識のインプットとアウトプット」

- 授業は、教科書精読、専門用語の理解（専門用語の小テスト、穴埋め形式の授業資料等の活用）、内容の説明を順に進める。説明時は、文字情報のイメージ化を促すため、図表を多く用い、教科書の文章と対応させて説明を行う。修得した知識のアウトプットを促すため、毎回の講義では簡単な練習問題を取り入れ、都度理解度や疑問点を確認す

る。また、国家試験形式の問題と記述式の問題を組み合わせ、修得した概念や事象を自分の言葉に置き換えて説明する練習を積めるように事後課題を設定する。

#### 「卒業研究」

- ・ 専門知識・専門技術の修得を支援し、論理的思考力と問題解決力を養う。また、卒業研究全体をまとめ、情報の適切な取舍選択と文章表現を支援する。

#### 【成果・評価】

- ・ 授業アンケートでは、概ねよい評価が得られている。評価の観点として、「この授業から新たな興味や問題意識を持つことができた」、「シラバスに掲げられた達成目標を達成できた」、「授業の目的や達成目標で示された能力・資質を身につけるような工夫がなされていた」などで8割以上が肯定的な回答をした。
- ・ 第108回薬剤師国家試験合格率は全国平均を上回った。生物系科目の基礎力養成に役立ったと考える。
- ・ 学生の卒業研究の成果は学会で発表（2023年度日本薬学会年会、日本薬学会北海道支部例会等）。

#### 【目標】

- ・ 短期的目標として、高校までの学習到達度に関わらず、どの学生にも理解できるような授業構成を再考する。
- ・ 長期的目標として、希望する学生全員が国家試験に合格できる学力を養成する。学生個々の学問への興味を引き出し、将来的に自己学習を絶えず続けられる人材を育成する。